

インタビュー

製造・技術

高い精度で金属加工を続けて半世紀 どんな仕事も断らず新素材にも挑戦

有限会社 つるみき一 道
 代表取締役 工藤 健



PROFILE

1970年に先代の叔父が金属加工業を開始。1980年、（有）つるみき一 道として法人化する。幼少期から叔父の仕事ぶりを見ながら育ち、約1990年頃から仕事を手伝うようになった。その後2代目として経営を継ぎ、熟練の技と飽くなき向上心で100分の1mm単位での金属加工に汗を流している。現在は人材育成にも力を注ぐ。

COMPANY DATA

有限会社 つるみき一 道
 住所 〒230-0071
 神奈川県横浜市鶴見区駒岡2-12-37
 URL <http://tsurukey.jp/>

横浜市で金属加工を手がける（有）つるみき一 道。子どもの頃から先代の仕事ぶりを見て育った工藤社長は、楽しむことを大事にしながら日々の業務に取り組んでいる。その姿勢を知った野球評論家の駒田徳広さんも、「今後がますます楽しみ」と目を輝かせていた。

100分の1mmの精度で金属加工

駒田 本日は、金属加工一筋の人生を送っておられる工藤社長にお話をうかがいます。まずは社長の歩みや（有）つるみき一 道さんの歴史を教えてください。

工藤 この会社は、私の叔父が1970年に立ち上げて10年後に法人化し、2020年で創業52年目を迎えたところですよ。私自身も幼い頃から叔父の仕事ぶりを見ていて、「後は任せろ」と言われながら育ちました。当社の業務内容を簡単にご説明すると、産業用機械の部品に切削加工を施すことです。100分の1mmという高い精度を求められる仕事なので簡単ではありませんが、ぴったり加工できた時には大きな喜びを感じます。

駒田 100分の1mmとは驚きです！さぞプレッシャーも大きいのでしょうかね。

工藤 ええ、私がこの仕事に就いたのは20歳の時でした。最初からすべてうまくはいきません。失敗を繰り返しながら研究を続け、「もう辞めよう」といったネガティブな気持ちを抑えながら事業にまい進してきました。お客様からお預かりする部品の中には、1個数百万円という高価なものもあります。そのような部品を加工して「少しだけズレました」とは絶対に言えませんから、今も大きな重圧と闘いながら研鑽を積む日々です。

駒田 （有）つるみき一 道さんは、機械が完成した後では見えなくなってしまう部品を加工する、いわば縁の下の力持ちですね。そこには大きなやりがいと喜びがあるのではないのでしょうか？

工藤 そうですね。ただ、この仕事を続けて30年になりますが、未だに「腕を上げたな」と満足したことはありません。今も模索しながら、金属の材質に応じて適切なバイトを選んでいきます。それがうまくはまって正確に加工できた時は、本当に気持ちがいいですね。

挑戦しなければ問題は解決できない

駒田 それでは、（有）つるみき一 道さん特有の強みを教えてください。

工藤 当社で誇れるのは、技術や納期を理由に仕事を断らない点です。価格面でライバルに負けるのは仕方ありませんが、それ以外の理由でご依頼をお断りすることはありません。もちろん、納期に関しては厳しい要求も多いです。例えば、1個の加工に2日かかる部品5個を「1週間で仕上げてください」と言われることもあります。そんな時でも、私たちは深夜まで残業したり、土日仕事したり、同業の仲間にも協力してもらいながらお約束の日までに必ず納品しています。その努力が、「つるみき一 道に」というご指名をいただけるのかなと。

駒田 「断らない」と口で言うのは簡単ですが、実際はなかなかできないことだと思います。「この部品の加工は無理だ」と尻込みすることはないのでしょうか？

工藤 金属加工は、素材が違えば使用するバイトの材質も刃を入れる角度も変わってきます。何度試してもうまくいかず、時間だけが過ぎていくこともあるのが実状です。ただ、挑戦しなければ問題を解決することはできません。だから当社は仕事をお断りしないんです。

駒田 同じ金属加工を担う後進の職人さんたちのためにも、社長から、プレッシャーに打ち勝つためのアドバイスをいただけませんか？

工藤 私も、若い頃は「こんな仕事は嫌だな」と思うことがよくありました。何か特別なことをしてきたわけではないんですよ。ただ夢中で頑張り、自分なりに役目を果たせるようになると、いつの間にか仕事が好きになってくるものです。今では当社が加工したパーツが機械の中で動いているのを見ると喜びを感じますし、30年という月日はあっという間だったと思いますね。

これからも楽しく仕事を続けていく

駒田 社長ご自身、職人として30年以上、会社としては半世紀を超える歴史を積み上げてこられました。そんな（有）つるみき一平さん、ぜひ将来の目標を教えてください。



工藤 まずは金属加工の研究を怠らないことです。この工場にはさまざまな素材が持ち込まれます。例えば現在は、宇宙探査で使用する特殊な素材の金属を加工してほしいというご依頼を

いただいているんです。「こういう素材だけど切ることができますか」と聞かれても、誰もやったことのない加工なので「できます」と即答することはできませんよね（笑）。しかし、私は「できません」ではなく「やります。調べます」とお答えし、資料を読んだり、さまざまな種類のバイトを試したりするなど挑戦をしているところです。こういった仕事は実におもしろいですし、やりがいもありますよ。

駒田 最先端の産業についていく仕事はご苦労も多いでしょう。でも結果を出し続けるから、「工藤さんならやってくれる」とご依頼をいただけるのでしょうか。

工藤 お客様のご要望はどんどんシビアになっています。正直に言うと、バブルの頃はそこまでシビアではなかったですし、仕事を大量にこなすことができた時代だったんです。でも今は数が少ないのに1000分の1mmの誤差も許されない仕事が増えました。ですから当社はスタッフ全員が集中し、正確無比な加工をするよう肝に銘じています。今後もどんな仕事だろうと断らず、新しい素材にも挑戦し、楽しみながら事業を続けていくつもりです！



GUEST COMMENT

駒田 徳広

日本のものづくりを支える工藤社長と（有）つるみき一平さん。30年、50年という月日は決して短くありませんが、社長は楽しむことを大事にしながら金属加工に情熱を注いできた方でした。今後は、社長が加工した部品が宇宙にまで飛んでいくかもしれないとのこと。時代の流れに合わせて躍進する（有）つるみき一平さんを、私も応援しています！